

## 製品・サービス動向-国内

■Neatframe：よりスリムで進化したビデオ  
会議体験を提供する新製品「Neat Bar  
Gen2」を発表

(PRTIMES:5月23日)

ノルウェーに本社を持つ Neatframe Ltd.の日本法人である Neatframe 株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都千代田区)は、新製品「Neat Bar Generation 2」(以下、Neat Bar Gen2)を発表した。



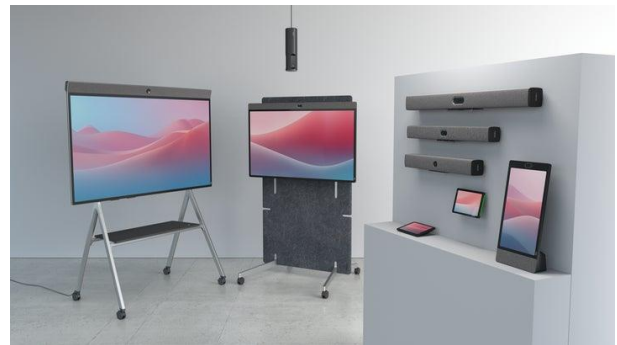
## Neat Bar Gen2 (Neatframe)

2019年に第一世代の Neat Bar を開発したとき、2024年までに世界の多くの大企業を含む13,000を超える世界中の顧客に採用された。Neat Bar Gen2は、あらゆる面でアップデートされている。より良いビデオ、より良いオーディオ、そして Neat の AI ソリューションを活用するためのより強力なプロセッサを搭載しているという。

Neat Bar Gen2は、中小規模の会議スペースに最適で以下のような強化された機能を提供する。

(1) 卓越したビデオ品質：広角・高ダイナミック50MPカメラは、会議スペースをとらえ、複数の人を

個別にズームイン、フレーミング、追従することができる。また、超高速ビデオ処理により、どこにいても全員が同じ大きさで画面に映し出され、グループと参加者のビューをダイナミックに切り替えることもできる。Neat Bar Gen2のプラットフォームは、ハードウェアアクセラレーションによるオーディオ、ビデオ処理を、クラウドではなくデバイス上で直接実行するようになっている。



## Neat デバイスのラインナップ (Neatframe)

(2) クリアな音声：Neat Bar Gen2は、5つのマイクロホン・エンドファイア・アレイ、4つの音声定位トラッキング・マイク、音声強調、エコーキャンセレーション、ディープノイズ抑制、残響除去の高度なアルゴリズムにより、より自然な会話の流れを可能にする。対向ドライバーを搭載したデュアルスピーカーは、振動を打ち消し、音域を最大化し、ゆがみを最小限に抑えるため、自然な音声を再生する。

(3) より魅力的な会議のための AI：Neat Bar Gen2は、強化された機械学習アルゴリズムを使用しており、部屋の音響や騒音、光の状態、レイアウト、人の動きなどを継続的に学習して適応することで、より優れた会議体験を提供する。

(4) エレガントでスリムなデザイン：Neat Bar Gen2 は、薄型スクリーンに最適な印象的なスリム・プロファイルを実現するため、搭載するテクノロジー・コンポーネントを入念に設計した。Neat Bar Gen2 は、スリム化が進むモニターにも設置しやすく、モダンなデザインのワークプレイスにもマッチする、エレガントでスリムなデザインを実現している。

## ■ロジクール：4K カメラやノイズを軽減する AI 搭載マイクなどの高機能性とコンパクトなデザイン性を両立した「MeetUp 2」を法人向けに提供開始

(5月22日)

株式会社ロジクール (<https://www.logicool.co.jp/ja-jp>) (東京都港区) は、カメラとマイクスピーカーが搭載されたオールインワン型の会議室向けカメラバー「ロジクール MeetUp 2」を、法人向け製品として 2024 年秋ごろから販売開始する。価格はオープン価格。「Microsoft Teams」「Google Meet」「Zoom」など一般的な会議・通話プラットフォームと互換性がある。



ロジクール MeetUp 2 (ロジクール)

MeetUp 2 は、ハドルルームや 4 名程度を収容できる小規模な会議室向けの、カメラとマイクスピーカーが搭載されたオールインワン型の BYOD 会議室向けカ

メラバー。一体化されたコンパクトなデザインでスペースを取ることなく、コード類も最小限なため、会議室での機器の設定が煩雑にならない。また手動の一体型プライバシーシャッターも搭載している。

ロジクールの CollabOS を実行するビデオコラボレーションシステム「ロジクール ROOMMATE」または専用 MiniPC と併用することで、互換性のあるビデオ会議ソフトウェアの会議室用ライセンスを適用した使用も可能となっている。

MeetUp 2 では 4K 対応の高解像度カメラや会議の状況に合わせて選べる表示モード、さらにマイクには雑音を軽減する AI を搭載し、従来の MeetUp と比べ大幅に画像、音質がグレードアップしている。また、BYOD モードでは、「アクティブ USB ケーブル」(別売、同時期発売予定) を併用することで、HDMI ケーブルを使用することなくビデオ会議を行うことができるようになっている。

また、4K 高解像度カメラ (4 倍デジタルズーム、対角画角:120 度、水平画角:113 度、垂直画角:80 度) によりクリアな映像を映し出すとともに、AI を使用したロジクール独自技術「RightSight 2」を搭載しており、画角の自動調整が可能となっている。会議の形式に合わせて、グループビュー・スピーカービュー・グリッドビューなど複数の表示モードを選択でき、リモート参加者も、対面で会議に参加しているような臨場感の高い印象を得られる。

一方、マイクについては、6 つのビームフォーミングマイクを搭載。また、AI を使用したロジクール独自の技術「RightSound 2」を搭載しており、空調やキーボードのタイプ音などの雑音の軽減とエコーを抑制し、発言者の声を明瞭に届ける。

また、現行製品の MeetUp で最大 4m(拡張マイク使用時は最大 5m)だった集音範囲が MeetUp 2 では最大 7m と広がった。

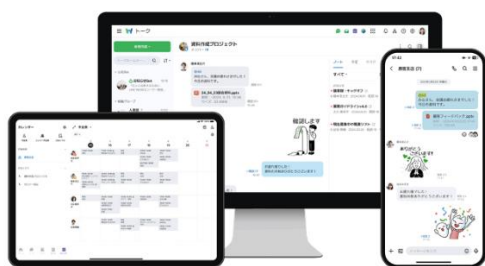
MeetUp 2 は、法人向けのデバイス管理サービス

「ロジクール Sync」を活用すれば、IT 管理者が一括して複数のデバイスを管理でき、デバイスを最新の状態に保つことができる。突然のトラブルもリモートで原因を診断できるため、会議に影響が出る前に問題を解決できる。

## ■LINE WORKS：LINE WORKS バージョン 4.0 を発表、サービスデザインをリニューアルし、ユーザ体験を大きく向上させるメジャーアップデート実施

(5月28日)

LINE WORKS 株式会社 (<https://line-works.com/>) (東京都渋谷区) は、新たに「LINE WORKS」のバージョン 4.0 を本日リリースしたと発表。



### LINE WORKS バージョン 4.0 (LINE WORKS)

今回のメジャーアップデートでは、これまでのアップデートの積み重ねにより複雑化していたサービス画面の要素とカラーを整理し使用性を向上させたほか、ダークモード対応や、サービス通知機能の刷新など、より直感的に操作できる機能追加および改善を行った。

(1) サービス UI の刷新とデザイン標準化：よりわかりやすく操作に迷わない UI を目指し、本バージョンでは今後のさらなるアップデートや機能拡張の可能性も踏まえ、各種要素やカラーの整理、アイコンデザインの変更を実施。

また、関連性の高い情報のグループ化を表示し、内容が把握しやすくなるようレイアウトを改善した。今後の機能拡張や統合の可能性を考慮し、ブラウザ版の

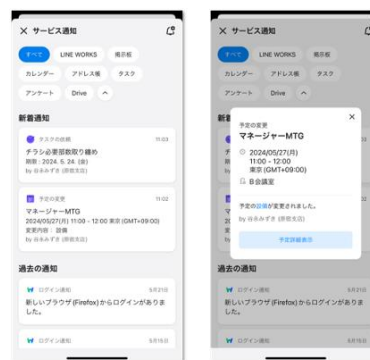
メニュー構成の再編も行った。

(2) アイコンのデザインやカラー、フォントの最適化：サービス開始から7年、各種カラーを見直し、低彩度で柔らかな色調に変更することで、ビジネス利用に適した落ち着いたイメージを実現した。

アイコンは直感的に理解しやすいデザインを採用。フォントは Pretendard フォントを使用し、サイズとウェイトを調整することでテキストの読みやすさを向上した。



### 直感的に理解しやすいデザインを採用 (LINE WORKS)



サービス通知専用のチャンネルで、アクションもしやすく

### サービス通知の最適化 (LINE WORKS)

(3) モバイル版ではダークモードに対応、より見やすく：OS で設定したテーマに従い、サービス画面をダークモードの配色で表示できるようになり、適切なコントラスト比、かつアイコンの視認性やフォントの可読性を担保するデザインで最適化した。低彩度のカラーを用いることで目に優しいデザインを実現している。

(4) サービス通知の最適化：サービス通知の統合に伴い、通知に関連するすべての設定が一画面に集約され利便性も向上した。従来のメッセージ形式で配信さ

れていたサービス通知に対して、今回サービス通知専用のチャンネルを新設したことで、サービス別に通知のフィルタリングが可能になったほか、過去の通知の振り返りも容易になった（30日以内の通知履歴を提供）。

加えて、プッシュ通知からダイレクトに対象のサービス画面に遷移することで、ユーザが目的のアクションを迅速に行えるようになった。

（5）その他：今回のアップデートにて、LINE WORKS のアプリアイコンを刷新する。また、トークにおけるメッセージの部分コピー機能、カレンダー（ブラウザ版）画面からタスク登録が可能になるなど、UIおよび既存機能の改善を盛り込んでいる。詳細は、同社 WEB サイトに掲載されている。

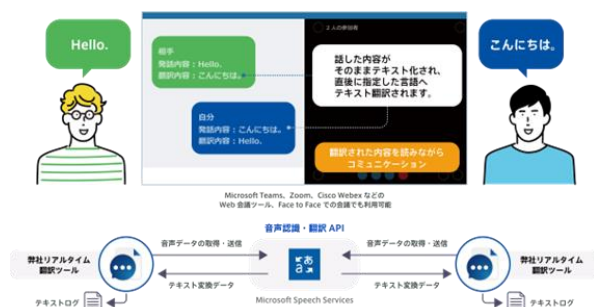
\*アップデート情報：

<https://line-works.com/release-notes/20240528/>

## ■フェアユース：Web 会議のための「Real Time Translator」の新バージョンをリリース

（@Press：5月15日）

フェアユース株式会社（<https://fairuse.jp/>）（東京都渋谷区）は、「Real Time Translator(リアルタイム翻訳ツール)」の新バージョンをリリースした。



### Real Time Translator(フェアユース)

Real Time Translator はリアルタイムに文字起こしや翻訳することができるソフトウェアおよび Web アプリケーション。日本マイクロソフト、トヨタシステ

ムズ、アヅヴィ合同会社（世界4位の製薬会社）などでの導入契約実績がある。

フェイスツーフェイスでの会議はもちろん、Web 会議でのやりとりを音声認識技術でリアルタイムに文字起こしし、翻訳することが可能となっている。Real Time Translator を利用してコミュニケーションすることで、利用言語の異なる参加者や聴覚障がい者の参加者との会議を円滑に進めることが可能になる。

新機能としては、発話者が話している途中でも、単語レベルで翻訳結果をリアルタイムに表示することができる「ブーストモード機能」のほか、翻訳先言語を最大3言語まで翻訳できる、プレゼンテーションモード画面の縦横のサイズを最大50%まで縮小できる、テキスト入力した文章を最大3言語に翻訳できる、などがある。

\*リアルタイム翻訳ツール 製品説明 / Real Time Translator：  
<https://youtu.be/GoxfuD-exw>

\*詳細資料：

<https://fairuse.jp/download/RealTimeTranslation.pdf>

## ■ビジネス動向-国内

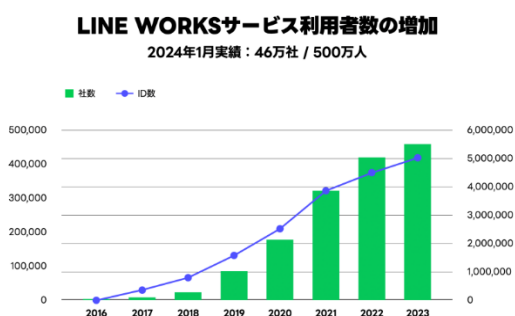
### ■LINE WORKS：導入社数が46万社を突破、利用者数が500万人を超え、7年連続で事業成長

（5月28日）

LINE WORKS 株式会社（<https://line-works.com/>）（東京都千代田区）は、5月28日に開催されたビジネスカンファレンス「LINE WORKS DAY 24」において、LINE WORKSに関する最新の実績数値を発表した。

2017年に提供開始したLINE WORKSは、2024年には導入社数が46万社以上、利用者数500万人を超える規模に事業成長した。企業におけるデジタル化やDXへの取り組みが高まり、働き方の変化がますます加速していく中で、DXの実現に向けて前進する企業を支援している。

LINE WORKS で取引先同士とのつながりは、130 万人（1 年前と比較して 46 万人増加）となった（2024 年 1 月時点）。LINE WORKS の利用者数が 500 万人を超えたことで、より仕事相手とつながりやすくなり、特に BtoB におけるコミュニケーションの活性化を実現しているという。



#### LINE WORKS 利用者数の増加 (LINE WORKS)

LINE WORKS は、月間 9600 万人（2023 年 12 月末時点）が利用しているコミュニケーションアプリ LINE とつながることができる唯一のビジネスチャット。LINE WORKS と LINE がつながる人数は 2700 万人（1 年前と比較して 600 万人）を突破した。主に BtoC 事業において顧客などの LINE とつながり、タッチポイントを増やす目的での活用が増加しており、特に金融、生命保険、不動産、小売などの分野で、顧客の LINE とつながる活用事例が多く生まれているという。



#### LINE WORKS 連携ソリューション (LINE WORKS)

LINE WORKS と「つながる」先として、現場（LINE WORKS 同士）、取引先（LINE WORKS 同士）、LINE（外部トーク連携）の 3 つに加えて、4 つめのト

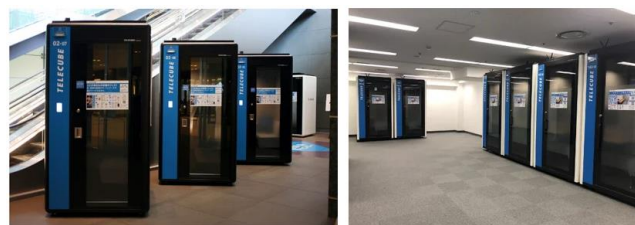
レンドとして、LINE WORKS と外部サービスを連携させる動きがある。LINE WORKS は 170 を超えるソリューションと連携しており、特にこの 1 年で勤怠管理サービスや人事労務ソリューションとの連携が加速している。社員の業務を効率化したり省力化することにつながり、バックオフィスの生産性を向上させる事例が増えている。

一例として、2023 年 12 月に開始された白ナンバーの社用車に対するアルコールチェック義務化においては、LINE WORKS が各種アルコールチェッカーと連携できるようになったことで、アルコールチェックを簡便化したり、管理負荷も軽減した。法改正をきっかけに LINE WORKS の利用がさらに進んでいるという。

#### ■テレキューブサービス：全国約 200 か所 450 台超のテレキューブで三菱 UFJ 銀行の資産運用オンライン相談サービスが可能に

(5 月 21 日)

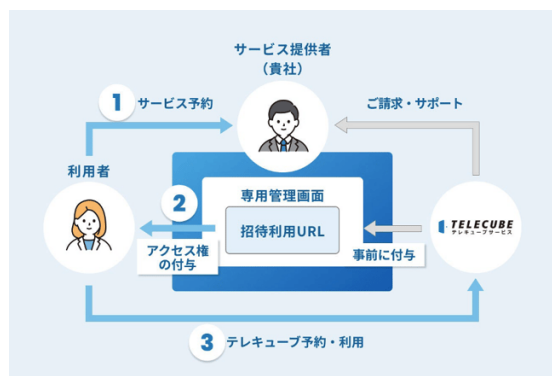
テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube.jp/>)（東京都千代田区）は、オンラインでの資産運用相談を展開する株式会社三菱 UFJ 銀行 (<https://www.bk.mufg.jp/index.html>)（東京都千代田区）と「テレビューロ」を締結したと発表。これにより、全国約 200 か所 450 台超のテレキューブにて、三菱 UFJ 銀行が提供するオンライン相談サービスを受けることが可能になる。



#### テレキューブ (テレキューブサービス)

テレキューブサービスが三菱 UFJ 銀行向けに提供するサービス「テレビューロ」は、日本全国のテレキューブに自社の顧客を招待し、オンラインの相談や

商談、面談などのリモート拠点として活用できるプラン。



### テレビューロサービスの流れ（テレキューブサービス）

相談者は移動やお仕事の合間などのスキマ時間を利用して、アクセスしやすいテレキューブのブースを招待利用URLからアクセスして自身で予約、静かなブース内からスマートフォンやパソコンを使って、三菱UFJ銀行の資産運用のオンライン相談ができるようになった。なお、招待利用URLから予約した場合、サービスを受けるお客様のテレキューブ利用時の料金負担はないという。

サービス開始は5月21日（月）～。全国の駅や空港、商業施設やオフィスビル約200か所、450台超のテレキューブが利用対象となる。利用可能時間は平日9:00～17:00。利用者は三菱UFJ銀行の口座を持つお客様。相談料、ブース利用料は無料。テレキューブ会員登録も不要だが、通信端末や通信環境（通信費も含め）は利用者自身での用意が必要となっている。

今後、テレキューブは、既存のビジネス利用の価値提供を続けるとともに、新たな利用方法の拡大を進めていく。今回の連携にとどまらず、他のオンラインサービスに関しても、テレキューブのユーザへの新たな価値を提供していくとしている。

## ビジネス動向-海外

### ■Neatframe：Neatのビデオデバイスが名誉あるRed Dot賞6部門を受賞

（PRTIMES：5月28日）

ノルウェーに本社を持つ Neatframe Ltd.の日本法人である Neatframe 株式会社 (<https://neat-japan.com/>)（東京都千代田区）は、Red Dot・アワード2024で6つの賞を受賞し、合計11のRed Dotを獲得したと発表。



### Red Dot賞6部門で受賞（Neatframe）

「デザイン界のアカデミー賞」と呼ばれるRed Dot賞は、プロダクトデザイン、コミュニケーションデザイン、デザインコンセプトの卓越性を示す国際的なコンペティション。Red Dot賞はデザインとビジネスの最高峰を意味する。

今年は、「Neat Bar Generation 2」「Neat Board 50」「Neat Center」「Neat Active Marker」がRed Dot賞を受賞した。また、Neat Board 50とNeat Centerは、Red Dot・スマートプロダクト賞も同時に受賞した。

Neatは、2019年にオスロで会社を設立して以来、人々がミーティングスペースで直面する課題を解決するために、シンプルで優れたデザインを一貫して適用してきた。

同社の使命は、あらゆる形態、機能、お客様のニーズを総合的にとらえ、どんなテクノロジーも気にせず直感的に使える、美しくシンプルで、利用しやすく、ユーザーフレンドリーなビデオソリューションを設計

し、提供しつづけることという。

日本法人は2021年7月設立。日本でもさまざまな業種、規模の企業に採用されているという。

\* 受賞の詳細：

<https://neat-japan.com/n/nfeb86b7763d2>

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■ブイキューブセミナー情報（6月）

「Zoomの電話って何?」「実演!ライブ配信・ビデオ通話アプリ開発」「WebRTCより簡単実装!技術者向け通話・配信SDK入門講座」「<V-CUBE | Zoom共催>これからのコミュニケーション環境のあり方」「従業員エンゲージメントを向上させる!社内イベントでのメタバース活用」など

会場：オンライン/オンデマンド/東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー（6月）

「【利用者向け】今月のWebexアップデート活用方法(6月)」など

会場：オンライン/オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNA.jpサイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。

この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNAレポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集

のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X（Twitter）（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

## 定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）

は下記URLで閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2024年5月31日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：[cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)